

Voice

「第2回高校生会議」に参加した高校生に、応募したきっかけなどを聞きました。

(※高校生の学年は2月15日時点)

今後のまちづくりに貢献できれば



ちばなのこ
千葉菜乃子さん
(高校2年生)

住んでいる平泉のことをもっと知りたいと思い参加しました。町内に住んでいる高校生で集まる機会がないため、すごく楽しかったです。

会議では自分が言いたいことを素直に言えました。今後のまちづくりに貢献できればと思います。

会議で出た意見でより良い町へ

高校生にしか分からないこともあるはずだと思います。会議に参加しました。地域の人たちと一緒に集まり、大人と高校生それぞれの立場で意見を交換できて面白かったです。

高校生会議で出た意見を通じて、より良い町になってほしいです。



はしかいけいと
橋階啓人さん
(高校1年生)

話しやすくて楽しい会議だった



すずきりかこ
鈴木里佳子さん
(高校2年生)

友達に誘われて参加しました。最初は堅苦しい雰囲気かと思っていましたが、とても話しやすくて楽しかったです。世代の違う人と意見交換できたのは、とても貴重な体験でした。会議を通じて、まちづくりの一端を知ることができました。

町の計画に関わってうれしかった

町の計画に関わる機会はめったにないと思います、参加しました。この会議を通じて、長島や平泉など地域によってさまざまな課題があることに気付かされました。難しかったですが、少しでも平泉の計画を手伝えることができてうれしかったです。



たかはしいちろう
高橋一陽さん
(高校1年生)

■第1回会議で出た意見(抜粋)

ここが好きだよ 平泉	<ul style="list-style-type: none"> ▷ おいしい野菜がある ▷ 町外に出たとき、自分の町を話しやすい ▷ 人間味のある人が多い ▷ 他にはない歴史がある(浄土思想) ▷ 祭りが面白い
ここが嫌だよ 平泉	<ul style="list-style-type: none"> ▷ みんなが楽しく集える場所が意外とない ▷ 成人式の時期 ▷ 国際交流の場がない ▷ 利便性に欠ける(お店が少ないなど) ▷ 学生が行く場所が少ない(図書館)

■第2回会議で出た意見(抜粋)

住み続けたい平泉！！	
▷	仕事がたくさんある町(働く場所がある)
▷	国際交流が活発な町、インターナショナルスクール建設
▷	交通が便利な町
▷	気軽に集えるきれいで素敵な公園がある
▷	一関図書館みたいに勉強や飲食ができる場所が欲しい
▷	高校や大学の設置(工業高校の誘致、医学部設置など)
▷	平泉町からインフルエンサーを輩出

に取り組みました。最終的に会議でまとまったキャッチフレーズは「おかしなさい、夢じゃおわらない町平泉」未来にはばたけ古都平泉「第一印象が良い町平泉」の3案。この3案は新町総合計画の基本構想に掲げるキャッチフレーズ原案の一つとして採用されます。

高校生の意見を総合計画に

町総合計画とは、まちの将来像を描くとともに、その実現のための基本目標や施策方針を定めた長期的なまちづくり計画で、今後の

まちづくりの指針となり、全ての計画の最上位に位置付けられる計画です。

今年始めて開催した高校生会議は、令和2年度から策定作業を進める新町総合計画に町の将来を担う高校生の思いを反映するために実施しました。

会議を企画したまちづくり推進課の八重樫忠郎課長は「令和2年度も高校生会議を2回開催する予定です。多くの生徒が参加することで、若い世代の意見を今後のまちづくりに反映させたい」と話していました。

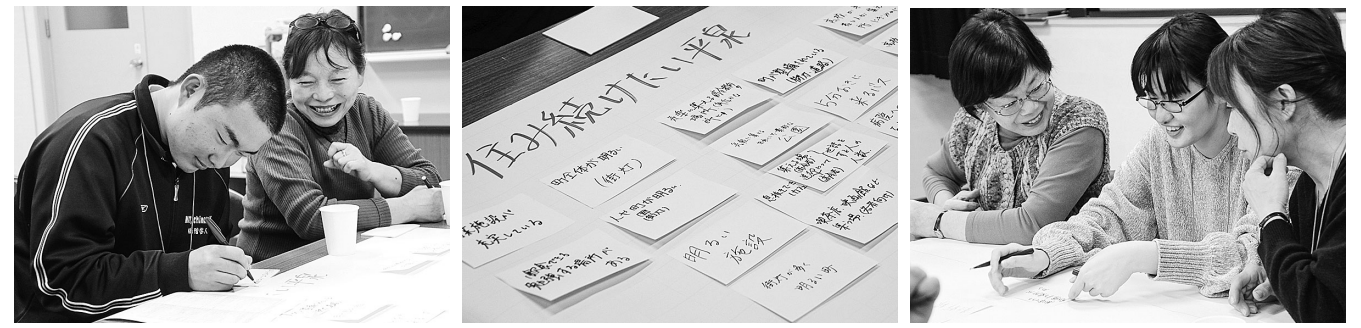
募集
します！

今後のまちづくりと一緒に考えてみませんか？

- ①高校生会議のメンバー
高校生の若い力・行動力・発信力・そして広い発想力で平泉町の新たな歴史の1ページをつくりませんか？町内在住の高校生であればどなたでも参加できます。
- ②平泉町協働のまちづくりサポーター
住民自らが地域のことを考え、主体的に行動し、住民と行政が共につくる協働のまちづくりを目指しませんか？

■申し込み・問い合わせ先

まちづくり推進課 ☎46-5578 ☎46-3080
電子メール(kikaku@town.hiraizumi.iwate.jp)



【特集】新たな声を取り入れる取り組み
高校生会議



10年間の期間で策定される新町総合計画へ将来の町を担う高校生の意見を反映させようと、本年度初めて「高校生会議」が開かれました。今月号では、高校生の声を今後のまちづくりに生かす新たな取り組みについて紹介します。

(写真)2月15日に保健センターで開催された「第2回高校生会議」の様子

高校生会議がスタート

1月11日、役場で「第1回高校生会議」が開かれました。会場には1年生から2年生の生徒5人と補助役として町協働のまちづくりサポーター6人が集まり、いのせき市民活動センター(一関市)の小野寺浩樹センター長を進行役にワークショップを行いました。

まちづくりの指針を考える

「第2回高校生会議」は2月15日、保健センターで開かれ、「住み続けたい平泉」をテーマに意見を交わし、町のキャッチフレーズ作り

ワークショップでは「平泉のスローガンを考える」と題し、平泉の好きなところや嫌いなところをテーマに意見交換しました。生徒からは「自然が豊かで美しい」「優しい人が多い」「世界遺産があり誇らしい」などの意見が出る一方、「街灯が少ない」「勉強する場所が少ない」「交通が不便」などの不満も出されました。

Interview ——— 町協働のまちづくりサポーターのメンバーに高校生会議に参加した感想を聞きました。 ———



ぬまたこうし
沼田光志さん(11区)

町について考えさせられる
良いきっかけになった

高校生たちが平泉の魅力をしっかりと把握しているだけでなく、今後のまちづくりに関して真剣に考えており驚きました。高校生たちの新鮮な意見を聞いて、自分も町について考えさせられる良いきっかけになりました。



ちばてるこ
千葉照子さん(15区)

平泉の文化を大切にしている
ことが実感できた

会議を通じて、町の将来を担う高校生たちは、私たちが思っている以上に平泉の文化を大切にしていることが実感できました。明るい希望を持った子どもたちが戻ってこれるまちづくりができればと思います。